



# 青少年赤十字だより

平成30年4月10日発行 第56号

編 集:群馬県青少年赤十字指導者協議会広報部(日本赤十字社群馬県支部内)

〒371-0833 前橋市光が丘町32-10 TEL 027-254-3636 赤十字の活動を知りたい人は…日本赤十字社URL <http://www.jrc.or.jp>

## 「気づき」がリーダーシップへの第一歩 ～リーダーシップ・トレーニング・センター開催～

夏休み中に県内各地から小・中学生、高校生の青少年赤十字メンバーが参加する「青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター」が開催されます。赤城山大沼のほとりにある赤城少年自然の家を会場に、2泊3日(高校は合計4日)の日程で、多くの児童・生徒が参加しています。

この研修会では、「気づき・考え・実行する」という青少年赤十字の態度目標を共同生活の中で実践しながら、赤十字の精神や救急法などを学びます。県内各地から児童・生徒が参加するため、普段は知り合うことのない地域のメンバーとも交流を図ることができました。

### 「リーダーシップとはどんな力でしょうか」

安中市立西横野小学校 教諭 土屋 宏晃

「リーダーシップ」と聞いてどんなイメージを持ちますか。一般的に考えられているリーダーシップのイメージは、自分が先頭に立って全ての指示をしたり、動いたりする人ではないでしょうか。もちろん、そのイメージは正しいし、よいことだと思います。しかし、それだけがリーダーシップではないと考えます。

私は、リーダーシップとは「気づき」の力だと考えます。青少年赤十字の態度目標として「気づき・考え・実行する」というものがあります。何か実行を起こすためには、考えをもたなければならないです。考えをもつためには、何に問題があるのか気づくことができなければなりません。すなわち、何か行動をするためには、まず気づくことができなければならぬわけです。その力を養うために、3日間にわたる研修を行っています。

リーダーシップ・トレーニング・センター(以下トレセン)の小学校の部は2泊3日で行われています。その内容の充実度から、1日を1年と呼び、3日で3年分の成長をしていきます。トレセンでの生活は普段の生活とは少し異なります。代表的な例として、指導者が参加者に対して「〇〇してください。」「〇〇を持ってきて下さい。」といった指示を口頭ですることはできません。全て掲示板を利用して、文字だけで伝えます。また、参加者も群馬県内各地から来るため、一緒に活動する友達もほとんどが初対面です。もちろん、指導者も初めて会う大人です。すなわち、積極的に情報を得ようとしたり、コミュニケーションをとったりしなければ何もできないことになります。始めは戸惑ってしまう場面も多く見受けられます。受け身の状態で活動をすることになっている場合もあります。しかし、自分が今何をしたら良いのかということを常に考えることで、徐々に積極的にできるようになります。そうすることで、1日目は自分のことで精一杯でも、2日目は参加している仲間のために行動でき、3日目は自分の学校のことまで考えられるようになります。その成長した姿を見ると子どもたちの持つ底知れぬ力に驚きを隠せません。

「気づき・考え・実行する」というのは学校だけでなく、社会に出ても必要な力になります。参加してくれた子どもたちは、学んだことを更にステップアップして、今後も活躍してくれることを願っています。



### 中学生リーダーシップ・トレーニング・センターに参加して

伊勢崎市立第一中学校 2年 多賀堂 龍見

あのトレーニング・センターでは、曲がった背筋がピシッとのびるよう、自分の「甘え」の部分がたたき直されました。

トレーニング・センターでは先生方からの指示は無く、次の行動は全て自分達で考えて先を見通して行わなければいけませんでした。普通の学校生活などではほとんど体験できないと思います。いそがしくて、1日中動き回っていてもやるべきことはたくさん残っていました。しかし、そのいそがしさが教えてくれたことはとても多かったです。

私はあまり先を見て行動することが得意ではありませんでした。「こうすれば、こんな結果になる」という予想より、それをする「おもしろさ」に目が行ってしまったり、部活動で練習器具を用意するときも今日の練習内容をしっかり把握しなくて器具を1つ忘れてしまったりなど、そのせいで失敗をたくさんしてきました。ですが、トレーニング・センターでの「気づき・考え・実行する」生活で先見をすることの「大切さ」と「必要性」が身につきました。

もう一つ私は成長することができました。それはV・S(ボランタリー・サービス)でした。最初は戻込みばかりしていてろくにできませんでした。しかしV・Sに挑戦した人に拍手が贈られたりするのを見て、なんだか勇気が出てきました。それから私は積極的にV・Sに参加し、たくさんの仕事をこなすことができました。そのとき私は「自分に勇気が無かったわけじゃないんだ、その出口が見つからなかっただけなんだ」と悟りました。そして3日目にはV・Sの募集がかかるときにスッと手が挙がるようになりました。

私はあの3日間で「先見の力」を手に入れました。そして「勇気の出口」も見つけました。これから生きていく中で、私は自分のリーダーシップの力を何度も必要とし、何度も使うと思います。周りからも必要とされるかもしれないです。そのたびに私は悩んで考えて動き、また悩むことを繰り返します。その中でも私は人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性に努めています。3日間ありがとうございました。



# 小学校 青少年赤十字活動しようかい

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

## 思いやりの心をはぐくむJRC活動

### ● 伊勢崎市立赤堀東小学校



ハイタッチあいさつ運動

本校の教育目標の一つに「ひとを思いやり助け合う子」があります。5月の登録式で全校児童がJRCに加盟し、人と人とのふれあいを大切にした活動を学校全体で行っています。中でも、あいさつ運動は、年間

を通して異学年混合縦割り班で上級生と下級生が一緒にになって取り組んでおり、時にはハイタッチをしながら行うこともあります。他にも、エコキャップや書き損じハガキの回収、赤い羽根共同募金、花壇づくり等の活動を行い、思いやりの心をはぐくんでいます。

## 異学年交流でのグループワークから

### ● 渋川市立小野上小学校



本校では、6年生や児童会が中心となり清掃や集会で異学年交流を行っています。全校話し合い集会の「せせらぎタイム」では児童会がよりよい生活を送るという視点からテーマを提案し、それについて縦割り班で高

学年だけでなく低学年も積極的に意見を出し合い、話し合ったことを確認し行動できるようにしています。お互いに発する「言葉」だけでなく、周囲の「思い」も受け止め、考え、進行する話し合い活動を目指しています。

## 全員参加のJRC活動

### ● 安中市立碓東小学校



本校では、JRC活動を劇にして紹介したり、休み時間に廊下の見まわりで安全を呼びかけたりしています。また、通年でプルタブやペットボトルキャップを集めたり、ユニセフ募金、赤い羽根共同募金、書き損じハガキ集めなどを全校に呼びかけたりして、福祉に役立てるための活動をしています。「気づき・考え・実行する」精神を生かしながら、あいさつへんじ運動と、笑顔・楽しさ・元気いっぱいの活動を全員参加で続けていきます。

## みんなで協力

### ● 太田市立葦川小学校



本校では、運動会や全校遠足で、縦割り班活動を行っています。今年度は、縦割り班で奉仕作業に取り組みました。6年生が中心となり、清掃したい場所に気づき、手順を考え、計画に従って実行し、全校で協力しながら学校をきれいにしました。この活動で「気づき・考え・実行する」JRCの態度目標を具現化することができました。また、JRC委員を中心に定期的に行っているベルマーク回収では、ベルマークを一輪車と交換することができ、活動の励みになっています。

## 「みんなのために」役に立ちたい！

### ● 藤岡市立藤岡第二小学校



JRC委員会は、例月活動であるリサイクル資源回収の他、手足の不自由な子どもたちを守りはぐくむ運動、赤い羽根共同募金、使用済み切手の回収などを行っています。人権を考える『ふれあい集会』などでは、手話を全校に指導して、聴覚障がいの方への理解も深めています。「この活動を通してだれかのために役に立っている」という意義を訴えることで、全校児童や保護者の協力はもちろん、地域や企業の方へと協力の輪は広まり始めています。

## 全校児童で育てる「思いやりの心」

### ● 板倉町立西小学校



本校では、児童会を中心にJRC活動に取り組み、あいさつ運動や赤い羽根共同募金、思いやり運動などの活動をしています。思いやり運動では、各クラスで、自分がしていきたい思いやりの行動を記入したものを「思いやりの種」として、自分がしてもらった思いやりのある行動を「思いやりの花」にして、「思いやりの木」を育てる活動を行っています。大きな「思いやりの木」を育てることで、全校児童で思いやりの気持ちを育てています。活動を通して、学校目標である「やさしい心をもった子」を育てています。

# 中学校 青少年赤十字活動紹介

～みんなの仲間が各地でがんばっています～

## 盛んな地域行事へのボランティア貢献

### ● 前橋市立荒砥中学校



のびゆく子どものつどい ボランティア貢献の様子

本校では、地域行事へのボランティア貢献が盛んで、のびゆく子どもの集い、城南地区運動会、城南地区文化祭等の運営に、多くの生徒（各行事60人～100人程度）が主体的に参加しています。地域の方々とふれ合う中で、生徒は奉仕の心や地域の一員としての自覚を高めています。また、校内で長年継続してきた生徒会主体のあいさつ運動、赤い羽根共同募金、エコキャップ回収、大切にしている清掃活動などへの取組やその精神が、ボランティア貢献にも生かされています。

## 「気づき・考え・実行する」

### ● 桐生市立相生中学校



本校では、6月に登録式を行い、1年生を含め、青少年赤十字の一員としての自覚をもちます。普段からアンテナを高く、周囲に気を配り、優しさをもって行動することを心掛けています。「いじめ0（ゼロ）プロジェクト」に取り組み、いじめのない学校を目指しています。また、「クリーン作戦」で地域の清掃活動をしたり、校内・校外での募金活動をしたりして「地域に誇れる相生中学校」から「地域が誇れる相生中学校」になるよう努めています。

## 「他を思いやる心」を育む活動

### ● 棚東村立棚東中学校



力して親子奉仕作業を年3回行い、校内や校庭の美化活動を行っています。また、生徒会本部の活動として「あいさつ運動」を行ったり、「村内いじめ防止子ども会議」に参加したりし、いじめ防止について棚東中生ができるこことを考え、「あいさつのとびかう学校」、「いじめを絶対に許さない学校」をめざしています。これらの活動を通して、「他を思いやる心」を育んでいます。

## 熊本県益城町へ友情ダルマ

### ● 高崎市立寺尾中学校



本校では熊本地震に際し、現地（益城町）で支援活動を行った青少年健全育成推進委員長（相原さん）を招いて、その様子を話していただきました。その後、学級委員会（兼JRC委員）が中心となり、私たちに何ができるかを全校生徒で話し合いました。そして、復興を願い「七転八起」を意味する高崎ダルマに、学年毎に寄せ書きをして「友情ダルマ」として益城中学校に贈りました。このような機会を通して、思いやりや助け合う心のあふれる寺尾中学校を目指しています。

## 地域のためにできること

### ● 富岡市立西中学校



本校ではボランティア委員会を中心に、多くのボランティア活動に取り組んでいます。7月に行われた「貴前神社の花植えボランティア」では、雨が降る中33名の生徒が参加して、地域の環境美化のお手伝いをしました。また、11月には富岡製糸場の周辺で行われた「ひまわりロードボランティア」に多くの生徒が参加して花を飾り、市民や観光客の皆さんに楽しんでいただきました。これからも、「地域のためにできること」を考え、活動していきたいと思います。

## 「小さな積み重ねを大切にして」

### ● 東吾妻町立東吾妻中学校



本校のJRC委員会の活動は、アルミ缶回収・ユニセフ募金・赤い羽根共同募金・書き損じ葉書の寄付活動を中心に行っています。また、今年度からは生徒会本部と協力して地域の清掃や花植えの活動にも取り組んでいます。それぞれの活動場所では、地域の方々にも協力していただき、交流を深め、地域の方々からも好評を得ることができました。また、委員の「気づいた」玄関清掃や置きがさの整理など、小さな活動も大切にしています。

# 高等学校 青少年赤十字活動紹介

## 「地域と学校を結ぶJRC部へ」

### ● 群馬県立渋川工業高等学校

私たちJRC部は週2回の活動の中で、エコキャップ運動や緑化活動・学校周辺の落ち葉清掃やゴミ拾い・雪かき・義援金活動に力を入れています。また、学童保育や公民館で「ものづくり」の楽しさを知ってもらうために「実験工作教室」を行っています。これは、渋川工業高校を良く知ってもらう活動にもなっています。

昨年、大規模な減災教育プログラムを実施しました。群馬県内の自然災害は少ないですが、ずっと安全かどうかは誰にも分かりません。そのような理由から災害への備えや対策を学校・地域・PTAに呼びかけて100人を超える参加者で行いました。

国土交通省から群馬の災害の講演や、豪雨体験、地震疑似体験、消防署からは煙体験、日赤からは炊き出し体験のご協力をいただきました。

災害の歴史では、群馬でも榛名山・浅間山の噴火・台風などで多くの犠牲者が出て大災害が起きていたことを学びました。

本校は災害時に避難所に指定されており、近くに住む人たちが避難してきますので、日頃から地域との繋がりは、いざという時の大きな力になると考えます。

ですから、JRC部はこれからも地域から必要とされる活動・地域と渋川工業高校を結ぶ活動をコツコツと続けていきます。



## 「生徒主体でのあいさつ運動」

### ● 群馬県立伊勢崎高等特別支援学校

本校では、ホームルーム委員が中心となって、年2回あいさつ運動を実施しています。あいさつを通して、生徒相互がコミュニケーションを図るようにし、明るい学校の形成、いじめ防止に向けて、生徒が主体的に活動できるようにすることをねらいとしています。そして、生徒が卒業後の社会生活を送る上で、望ましい資質や態度が身に付くことを期待しています。各ホームルーム委員は有志の参加生徒も含め、仲間が登校する前に生徒玄関前に並び、たすきをかけて大きな声で「おはようございます」とあいさつをします。あいさつをされた生徒も「おはようございます」と返し、気持ちの良い朝の空気が生まれています。あいさつ運動に参加した生徒に聞いてみると、「あいさつをすると、相手からもあいさつが返ってきて、気持ちがいいです。」「普段、あまり話すことがなかった生徒とも話ができました。」などの感想が聞かれました。生徒同士のコミュニケーションがとれるようになり、学校生活に活気が生まれていることが分かりました。今後も本校では、生徒が主体となったあいさつ運動を続けていき、ますます生徒同士の風通しがよくなることを期待し、社会に出てからも、しっかりとあいさつのできる社会人として活躍することを願っています。



## 「誰かのために、そして自分のために」

### ● 群馬県立館林高等学校 2年 栗原 孝佳

私たち館林高校JRC部は、ペットボトルキャップの回収や被災地への募金活動、館林市で行われる「麺1グランプリ」のボランティア活動など様々な活動を行っています。今年度からは、近くの公民館で行われている「子ども食堂」や「子ども広場」のボランティアにも参加を始めました。「子ども食堂」では、会場の準備や片付け、配膳や皿洗いなどの手伝いをしています。「子ども広場」では、公民館に来た子ども達と交流しています。先日はその公民館で行われた町内会の餅つき大会に参加しました。どちらの活動も、子ども達だけでなく高齢者の方も多くいて、幅広い世代の人達と交流することができました。日常生活では経験できないことなので、とても良い事だと思います。

このようにJRC部の活動は、人のためだけでなく、自分自身のためにもなっています。ボランティアをすると、「頑張ってね。」「ありがとう。」といった言葉から人の優しさを感じ、次も頑張ろうという気持ちになります。私たちの活動は、とても学ぶことがたくさんあり、日々成長できるものだと思います。これからも協力してくださる方々への感謝を忘れず、誰かのためにになり、そして自分のためになる活動を続けていきたいと思います。



## 「群馬埼玉青少年赤十字 高校生交歓研修会に参加して」

### ● 群馬県立高崎東高等学校 1年 高野真里奈

2月11日に日本赤十字社群馬県支部で『群馬・埼玉交歓研修会』が行われました。

午前には参加校紹介、活動発表、県自慢、アイスブレーキング、群崎クイズをし、県自慢では埼玉のゆるキャラの多さに驚かされました。群崎クイズでも有名な芸能人が埼玉・群馬出身と知りびっくりしました。昼食は午後のウォークラリーの班のメンバーと食べ、お互いまだ緊張はあるものの楽しく会話をしている様子を見て絆が深まったように感じました。

午後には群馬県高校生協議会役員が一生懸命考えたJRCウォークラリーを行いました。

赤十字・折り紙・救急法・災害・クイズ・国際の内容に分かれて各部屋を回り、役員からサインを貰います。部屋ごとに班の評価をし点数をつけて（点数のつかない部屋もある）見事1位に輝いたチームには景品が贈られました。

自分はタイムキーパーで各部屋を回ってたのですが、役員からクイズを出されて楽しそうに回答している姿を見て、楽しんでもらえているということに嬉しさとやりがいを感じました。自分のミスで役員や指導者の方々に迷惑をかけることが多かった1日でしたが、とても充実した1日となりました。



# シンガポール派遣報告

## ～日本赤十字社北関東三県支部青少年赤十字海外派遣～

日本赤十字社北関東三県支部（群馬、茨城、栃木）では、7月23日～7月28日の6日間、青少年赤十字メンバー15名と指導者3名をシンガポール赤十字社へ派遣しました。シンガポールの歴史や政治、住んでいる民族について学び、赤十字施設の視察やシンガポールメンバーと交流を図りました（本県からは高校生4名、中学生1名、指導者1名を派遣）。

### 群馬県立前橋高等学校 2年 太田 凌輔

私がシンガポール研修で印象に残ったことは下記の2点です。

最も印象に残っていることは、現地の赤十字本社や中学校で同年代の子供たちと交流したことです。そもそもこの研修に参加しなければ一生出会うことはなかったであろう人たちと出会えただけでなく、言語も文化も違う出会ったばかりの人たちと、たった数時間で、まるで昔からの友人のように仲良くなれたことはとても印象的でした。彼らとは現在もSNSを通して連絡を取り合う仲で、この国境を越えた友情は一生の宝になることと思います。

次に印象に残ったのは、シンガポールの赤十字活動の活力です。日本に比べて高齢者が少なく子供が多いということもあってか、赤十字活動の運営にも多くの若者が携わっていたことが、印象的でした。統一された赤十字のユニフォームもとてもかっこよく、JRCの一員であるという意識が強く感じられました。国の未来を担う子供たちが学生のうちから赤十字活動に取り組むことで、より赤十字活動が広まっていくと考えます。群馬県の小中学校は全国一のJRC加盟率であるので、これから県外にも赤十字活動を広めていけたらと思いました。



### 群馬県立前橋南高等学校 2年 松井 みさき

シンガポールで現地のメンバーと触れ合うと、皆フレンドリーですぐに打ち解けあうことができました。現地メンバーはおそろいのユニフォームを着ていて、周りから見ても赤十字の活動をしているとすぐにわかりました。派遣では、赤十字についてだけでなく、シンガポールのことが学べました。また、現地での会話は全て英語だったので英語の勉強にもなりました。普段経験できないことも多く、とてもいい機会になったと思います。数日間の滞在でしたが日本との違いが多く、驚くことが多々ありました。外から自分の国を見てみると日本にいるときにはわからないことにも気づくことができました。

私は今回の海外派遣に参加し、赤十字の重要性を改めて感じました。ですが、周りを見ていると、赤十字の認知度はあまり高くないなど感じることが多いです。活動していると、「JRC部って何?」と聞かれることが多いです。なので、まずは自分の周りの活動を充実させていき、そこからより多くの人に赤十字の活動について知ってもらいたいと思いました。

### 群馬県立前橋女子高等学校 2年 塚田 みゆ

私にとってこの研修はシンガポールをよく知るとともに、他県の赤十字メンバーとの交流を図れるよい機会となりました。また、自分を試すことができ、充実した6日間を過ごすことができました。毎日が見たことのない景色、出来事で感動の連続でした。一番思い出に残ったことは、現地の赤十字メンバーとの交流です。皆気さくで、目が合うと「What's your name?」と、笑顔で話しかけてくれました。ゲームをしたり、一緒に食事をして絆を深めました。英語で長時間会話をすることに慣れていませんでしたが、話題は尽きることなく、あつという間に時間が過ぎていきました。別れがとても名残惜しかったです。その時に交流したメンバーとは現在もSNSを通じて、交流を続けています。英語を話す中で正確な英文でなくても、表情やジェスチャーを使えば単語を並べただけでも伝わるということを、改めて実感しました。英会話では、相手と会話をしたいという気持ちを持つことで、英語力が生きていくのだと思います。研修では多くの新しい経験と感動を得ることができました。この体験を糧に、今後も邁進していきたいと思います。



### 前橋育英高等学校 2年 栗原 比奈乃

私は、「今しかできないことをできるとき」という思いから今回のシンガポール派遣に応募しました。現地では、シンガポール赤十字本社をはじめたくさんの関係機関を訪問し、現地の学生とも交流を図りました。英語が苦手な私は、上手くコミュニケーションがとれるか不安でしたが仲間の助けにより楽しい時間が過ごすことができとても嬉しかったです。

ウェルカムパーティーでは、わたしたちの踊りなどの発表を見た現地の学生達が大きな歓声をあげてくれたので、練習の成果が出せたと実感しました。パーティーの最後に参加者全員で歌をうたったときは国境を越えて一つになれた気がしました。

今回、旅行ではなく青少年国際交流派遣事業だったからこそ普段できないような貴重な経験ができ、多くのことを学ぶことができました。また、国際交流をするうえで大切なのは相手を理解しようとする気持ちと伝えようとする気持ちであるとあらためて感じました。

この派遣で学んだことを部活内だけでなく、JRCに関わる多くの人に伝えていきたいです。

### 太田市立東中学校 2年 不藤 里菜

私はこのシンガポール派遣が初めての海外渡航で、何もかもが新しい体験でした。その中で、一番印象に残ったのが加盟校交流会です。

交流会では、学校を見学しながら設備や活動などを説明してもらいました。私は英語が苦手ですが、回っている途中で加盟校の生徒とジェスチャーを交えながら会話をすることができます。

また、私たちは日本についてのプレゼンテーションやレクリエーションをしました。プレゼンテーションをしているときでは、相手校の生徒がうなずきながら真剣に聞いて下さり、お互いに理解を深めることができます。

この交流会で生徒の積極性に感銘を受けたとともに、伝えようとすることが相互理解を深めるにあたって重要なだと改めて思いました。そして、シンガポール派遣に参加することで、海外の人との関わりを持つなど貴重な体験をすることもできとても良かったです。

私はこれからこの派遣で学んだことを生かし、赤十字の活動に関わっていこうと思います。



# 青少年赤十字「作文」「ポスター」コンクールの結果

日本赤十字社群馬県支部では、メンバーの夏休みを利用して、赤十字や青少年赤十字に関する作文やポスターの作品募集を行っています。これは、各メンバーが青少年赤十字に関心をもち、活動に対する意欲を高めることを目的として実施しています。なお、入賞者には賞状と副賞を、応募者全員に参加賞を差し上げています。毎年実施していますので、ぜひ皆さん応募してくださいね。

## 「作文」コンクール入賞者

### 小学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	みどり市立笠懸小学校	高村 韶	6	「みんな同じ人間どうし」
人道賞	館林市立第六小学校 館林市立第八小学校	石丸 陽大 池澤 隼映	3 6	「ぼくの学校の青少年赤十字 国際理解、親善を深めるために」
JRC賞	館林市立第六小学校 館林市立第八小学校 館林市立第九小学校	石丸 莉子 佐竹 美羽 須藤 汐音	5 5 5	「私にできること ボランティア 献血について」

### 中学生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	みどり市立笠懸中学校	木村日菜子	2	「広がるプラス・ワン」
人道賞	太田市立北中学校 館林市立第二中学校	齋藤 零 遠山 芽依	3 3	「JRCでの三年間で学んだこと 支え合って生きていく」
JRC賞	伊勢崎市立宮郷中学校 伊勢崎市立宮郷中学校	河瀬 梨子 小池菜々美	2 2	「見方を変える」 「私にできるボランティア活動」
	伊勢崎市立宮郷中学校	丸山 愛生	2	「ボランティア活動について」

### 高校生の部

受賞区分	学校名	氏名	学年	作品名
アンリー・デュナン賞	群馬県立桐生南高等学校	橋本茉奈実	3	「新しい自分」
人道賞	群馬県立前橋高等学校 群馬県立伊勢崎高等学校	太田 凌輔 清水 拓哉	2 2	「赤十字の持つ力」 「優しい瞳で人に接する力」
JRC賞	群馬県立前橋高等学校 群馬県立沼田高等学校 高崎商科大学附属高等学校	茅嶋 智史 須藤 俊介 木村かりん	2 2 2	「今までの後悔、これから的人生」 「赤十字の大切さ」 「私と青少年赤十字」



## 「ポスター」コンクール入賞者



2nd 人道賞(優秀賞)  
群馬県立榛名高等学校  
三年生 宮下 彩花



1st  
アンリー・デュナン賞(最優秀賞)  
館林市立第八小学校  
6年生  
丸山 心優



1st  
アンリー・デュナン賞(最優秀賞)  
藤岡市立小野中学校  
3年生  
福嶋 彩加



2nd  
人道賞(優秀賞)  
高崎市立南八幡中学校  
2年生  
土屋 香乃



2nd  
人道賞(優秀賞)  
高崎市立南陽台小学校  
5年生 渡会 遥音



2nd  
人道賞(優秀賞)  
伊勢崎市立第一中学校  
1年生  
西目 世恋



2nd  
人道賞(優秀賞)  
明和町立明和東小学校  
5年生  
田村 美結



2nd  
人道賞(優秀賞)  
桐生市立中央中学校  
3年生  
中根 叶夏



3rd  
JRC賞(佳作)  
伊勢崎市立第一中学校  
1年生  
晴日 七平



3rd  
JRC賞(佳作)  
館林市立第六小学校  
4年生  
原 美梨花



3rd  
JRC賞(佳作)  
伊勢崎市立殖蓮中学校  
2年生  
齋藤 樹里



3rd  
JRC賞(佳作)  
渋川市立北橋中学校  
3年生  
番場 彩愛

### 学校奨励賞 受賞校

- 小学校：館林市立第九小学校
- 中学校：伊勢崎市立宮郷中学校  
みどり市立笠懸中学校
- 高等学校：群馬県立桐生南高等学校  
群馬県立伊勢崎高等学校



3rd  
JRC賞(佳作)  
館林市立第一小学校  
4年生  
川島 瞳依



3rd  
JRC賞(佳作)  
渋川市立豊秋小学校  
6年生  
富沢 拓歩